

接合部性能試験成績証

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
 平成23年9月27日

東京都港区芝5-33-7
 徳栄ビル本館4階
 ハウスプラス確認検査株式会社
 代表取締役社長 柳澤 恒雄

1. 接合金物名称	登り梁金物
2. 試験依頼者	株式会社 カナイ 〒340-0833 埼玉県八潮市西袋717-1
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(引張)を評価する。
4. 試験内容	横架材端部仕口(梁-梁型)の引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>登り梁金物 1個 材質: SGHC (JIS G 3302*1) 寸法: (外形)64.5mm×64.5mm×141.19mr 板厚t=3.2mm 表面処理: Z27</p> <p>2) 接合具</p> <p>横架材(登り梁)側: 「3#角ビット鍋スクリュー(スプーンカット) φ6.0×60」5本 材質: SWRCH22A相当 (JIS G 3507-1*2) 寸法: 頭部φ9.85mm, t=3.9mm, L=60mm 最小断面径: φ4.45mm 表面処理: 電気亜鉛めっき及び有機皮膜</p> <p>横架材(桁)側: 「3#角ビット鍋スクリュー(スプーンカット) φ6.0×90」5本 材質: SWRCH22A相当 (JIS G 3507-1*2) 寸法: 頭部φ9.85mm, t=3.9mm, L=90mm 最小断面径: φ4.45mm 表面処理: 電気亜鉛めっき及び有機皮膜</p> <p>3) 軸組材料</p> <p>横架材(登り梁): 105mm×105mm×800mm スギ製材 含水率: 11.0~17.5% 絶乾密度: 0.39~0.44g/cm³</p> <p>横架材(桁): 105mm×105mm×1000mm スギ製材 含水率: 9.0~21.0% 絶乾密度: 0.39~0.40g/cm³</p> <p>4) 仕口の形状</p> <p>登り梁-桁: 登り梁側を勾配に合わせた形状とし、桁に大入れ(深さ12mm、幅105mm、高さ51.8mm)</p> <p>*1 JIS G 3302 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 *2 JIS G 3507-1 冷間圧造用炭素鋼線材</p>
6. 試験条件等	試験体は実状に合わせ、12.5寸勾配を持つ横架材(登り梁)端部接合部を想定している。 加力は横架材(登り梁)勾配方向に行った。 試験体の固定は、登り梁を鉛直方向となるように登り梁軸心から横架材(桁材)両木口方向200mmの位置で、専用固定治具(鋼製)にて強固に固定した。
7. 試験結果	短期基準接合耐力 7.6 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜試験研究センター: 神奈川県横浜市鶴見区元宮1-12-24
9. 試験実施日	平成23年8月31日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 上杉 義則 道場 信義 千葉 博 加川 啓介

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。